

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2071800144		
法人名	株式会社ライフ・ケア		
事業所名	グループホームまゆ更科		
所在地	千曲市杭瀬下2-85 (電話) 026-273-7080		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月13日

【情報提供票より】(平成11年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤12人, 非常勤 2人,	常勤換算12.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷 金	有 ( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(平成11年11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	2	要介護 2	1		
要介護 3	7	要介護 4	7		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 83.2 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・千曲中央病院 ・稲荷山医療福祉センター
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲には体育館、あんずホール、多目的広場、公園等があり立地条件に恵まれている。2つのユニットが常に交流し、体操や風船バレーなど明るい笑い声が聞かれ開放的な雰囲気である。「ホームから認知症について地域に発信する」との意欲から管理者も講師として地域へ出かけている。地元地域からも老人会への誘いがあつたり、開設から5年目を迎えた今では多種多様なボランティアが訪れており、入居者は何の抵抗もなく受け入れている。またゴミ0運動などの社会奉仕活動にも入居者と参加している。ユニット交互に買い物に出かけたり、ご飯と味噌汁を片方のユニットで作作り、片方ではおかずを作るなどその日の状況にあわせ手分けをして行き、入居者の年々の重度化に対応しつつ、職員が入居者に接する時間を可能な限り多くもつように全員で創意工夫している。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りは年4回発行できるようになり、見やすいように工夫されている。職員の相互訪問に関しては市内3グループホームと行ないたいとの前向きな姿勢が見られた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	全員で行なった評価から「お金を持つことへの支援」に気づき、障害者施設で作った野菜、クッキーなどの販売をホーム内で行い、入居者自らお菓子を買って皆にふるまい、「ご馳走さま」の返礼に対して明るい表情をみることができた。提供しているサービスを見返し、質の向上や改善に活かすことも出来た。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) お花見や敬老会などをかねて年3回家族会を開催している。家族がホームに入居者を訪ね、以前ホームに家族が持参した柿を干し柿に仕上げた出来ぐあいを職員と話したり、入居者の昼食準備のかかわりを見るなど良い関係が結ばれている。反面、一人ひとりの能力を最大限に活かした自立支援がプラスになり手助けの必要が少なくなってきた、家族によってはどこまで手を出していいのか迷われる場面も見受けられると伺った。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「認知症に対しての偏見をとりたい。」との思いから管理者が講師として地域に向かっている。また多種多様なボランティアの訪問があり、人数制限しないで受け入れをしている。地元地域から誘われて老人会への参加やゴミ0運動など奉仕活動にも参加している。文化会館へのコンサートなどにも出かけるなど日常的に地域の人たちと交流している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義について皆で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げた。住み慣れた地域での暮らしを支援するために入居判定については地域性を加味した点数制を導入している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は一日三回行なわれる引継ぎ時に理念を唱和し、実践に結びつけている。職員トイレの壁面には理念実践に向けた視点として5項目が貼りだされていた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「認知症に対するの偏見をなくそう」との趣旨から管理者が地域で講演したり、社協の協力を得て地区の老人会へ参加している。多種多様なボランティアの訪問も定期的にある。また入居者と一緒にゴミ0運動に参加するなど地元住民とも積極的に交流をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全職員で行われた。その結果お金を持つことへの支援の大切さを改めて気づき、障害者施設と提携して、手作りの野菜、クッキーなどの販売がホーム内で行なわれている。訪問調査当日にも販売が行われ、入居者がにこにこしながら品定めをする光景を見ることが出来た。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人々にホームを知っていただくとの考えから多方面の立場の方に参加していただき、有意義な話し合いをしている。会議で「サポーター養成講座」を提案し、2月には開催の方向でいる。会議録は入居者家族に配布している。また外部評価結果については来訪者にも公表することを検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所運営に限界を感じた時など市の係りの方に相談、アドバイスを頂いている。市の担当部署も協力的で、他の施設で行なわれた講演会を録画をしてくださり情報として提供していただく等、共に質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	お便りは年4回発行し家族に配布している。そのほかに居室担当職員は入居者の様子を手紙に書き詳細に報告し、家族等に喜ばれている。金銭管理は面会時に確認印をもらっている。職員異動についてはお便りと家族会で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お花見や敬老会などをかねて年3回家族会を開催している。家族がホームに入居者を訪ね、以前ホームに家族が持参した柿を干し柿に仕上げた出来ぐあいを職員と話したり、入居者の昼食準備の様子を見学し時には手伝うなどホームと良い関係を結んでいる。自立支援のプラス面が出て、手助けの必要が少なくなってきて、家族によってはホームを訪れどこまで手を出してよいのか戸惑う家族もいると伺った。	○	家族等が意見や要望を表せる場面づくりを積極的に設けられることを望みます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常に2ユニットが交流し、体操やゲームが行なわれ全職員と馴染みの関係となっている。採用もなるべく地元での補充に心がけている。入居者と職員の中には以前同じ趣味の講座の仲間だったことから旧交を温め、更に良好な関係につながっている場合もある。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各種の研修に参加している。市の福祉課において他の介護施設で行なわれた講演を録画していただき研修材料としたこともある。OJTの実施など現場での教育にも意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1回の市施設部会（市福祉施設全体の集まり）や善光寺平グループホームネットワーク、市内3ヶ所のグループホーム、地域密着特定施設等と定期的に交流しサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市内3ヶ所のグループホーム職員との交流を考えられているということであるが、早期に実現され、相互訪問を通して職員の資質向上につなげられることを望みます。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みを希望される方は入居するしないにかかわらず、別途、一日体験をしている。訪問調査時、家族に付き添われ来所された方が体操や風船バレーを体験し、昼食を食べて帰られる場面を見ることができた。泊まりの体験も可能である。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から戦争体験や水道・電気のなかったころの話を聞き、「大変だったんですね」と苦労を知り、自分たちの今の幸せを感じている。野菜の種を播く時期や間引きの仕方、りんご・ぶどうの種類を教えてもらうなど入居者の生活の知恵から多くを学んでいる。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今日はどんな一日にしたいですか・・・?」 「そうさなあ・・・」と入居者が一瞬考え、答えが返らなくても自己決定に持っていくよう心がけている。訪問調査時、新聞を見ている方に職員が「体操に行きませんか!」と声がけをすると暫らくして他のユニットに体操に行く姿を見ることができた。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に意向を伺っている。家族を含めてサービス担当者会議が行なわれている。家族、職員等が意見を出し合い本人本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録の中にケアプランの評価があり、日々遂行状況を確認している。状態が変わった時には見直しを行い、必要に応じ医師からの意見も交え現状に即した介護計画に作りかえている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や理髪への付き添いを行なっている。地域住民の要望があれば一時的に利用できる支援も考えており、運営推進会議で相談予定である。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの開業医が定期的（4週間に1回）に往診を行なっている。年に1回の健康診断も実施している。最近インフルエンザの予防注射もしていただいた。ホーム入居以前からのかかりつけ医の診察を継続している入居者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最期までホームを利用しつづけたいと希望する家族は多い。重度化や終末期の対応については今後も関係者と相談しながら作成する予定である。家族と話し合い、意向に沿って開業医とも連絡をとり、職員一丸となり看取りをおこなった事例もあり、全職員で方針を共有できている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては玄関に掲示している。毎月言葉遣いの見直しをしており、「『〇〇〇』という言葉遣いをやめよう」といった目標をたて、意識づけし、実践につなげている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は6時～8時、就寝は19時～23時、食事の時間も各入居者にあわせ提供している。訪問調査時も10時から朝食を摂られる方もいた。職員は傾聴ボランティアや介護相談員などの外部の方から入居者の世代の昔の様子を聞くこともあり、入居者の日々の支援に役立っている。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に応じて職員と共に準備や片付けをしている。男性入居者が積極的に盛り付けやテーブルを拭く姿が印象的だった。また食事中、職員が嫌いな肉を肉好きな入居者の器に入れて顔を見合わせているほほえましい光景もみられた。職員の声に励まされながら自分の力で食べようと努力している入居者の姿も垣間見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、午前、午後、本人の希望の時間に入っている。入浴を拒否される方には「明日は〇〇先生が来るので綺麗になっておきましょう」などの言葉がけで行なわれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人のために何かする、そして「ありがとう」と言ってもらえる機会を一日に一回は入居者に持ってもらえるように場面づくりをしている。多種多様なボランティアとのふれあい、文化会館でのコンサートにも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに隣接して野球場も備わった公園があるので散歩は日課となっている。一人ひとりの身体機能に配慮し、行きたい場所へ行けるように各入居者に応じてグループ分けし実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットごとに玄関の戸には違った鈴が付けられているが鍵はかかっている。住み慣れた景色や馴染みの職員、顔見知りのボランティアの来訪などにより入居者は落ち着いており、不意の外出も少なくなってきた。万が一の場合には近隣の方からの連絡もある。		

グループホームまゆ更科

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の訓練を実施しているが、10月には夜間を想定し消防署の立会いで放水訓練も行なわれた。避難訓練では入居者は職員の手から地域の人に引き継がれ避難場所へ向かった。	○	夜間の避難や連絡の方法については急を要するので十分に検討し日頃から実践することを望みます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量はチェック表に記入され、水分摂取にも心がけている。献立は法人の管理栄養士の立てたものをアレンジし、近所からいただいた野菜・果物を利用している。いつでも栄養士とは相談できる状況である		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が2つのユニットを行き来し、体操や風船バレーが大勢で行なわれ楽しい笑い声が響き渡っている。季節の切花や観葉植物も飾られ明るい雰囲気を出している。昼コーナーではこれからコタツが作られるが、ベットがわりにする入居者もいると伺った。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれている。ひ孫と七五三と一緒に撮った写真を飾る方、亡くなったご主人の写真と鐘を置き供養なさる方など思い思いの安らぎの居室となっている。		

※  は、重点項目。